



物流から考える
とちぎの未来

section 15

企画・制作／下野新聞社ビジネス局

運送事業者は「2024年問題」や「2027年問題」の解決を図るため、業務の見直しを行っています。鋼材を輸送するワーレックス株式会社（小山市）の松本義典社長に、同社の取り組みを伺いました。

ハコブトチギ
特設Webサイト



過去の連載は
こちらから
ご覧いただけます



<https://www.shimotsuke.co.jp/feature/special/transport-tochigi>

物流業が抱える課題

当社は、日本の基幹産業を支える鋼材を輸送しています。2024年度は国内23営業所で計175万9894トンを輸送しました。

物流トラック業界は、ドライバーの時間外労働の上限が規制される「2024年問題」に加え、高齢化と大量退職によるドライバー不足が懸念される「2027年問題」など、多くの課題を抱えています。

■管理システムを構築

2017年頃から、これらの課題解決に向けて、ITを活用した管理システムの構築やドライバー教育などを進めてきました。

この管理システムは、荷主のシステムと連携する一気通貫型です。配送依頼の登録から配車、日報入力、さらにはアプリによる動静・勤怠管理まで、全ての業務が連動します。これにより、運用・管理の統合化とネットワーク化を図るとともに、ドライバーの働き方改革も実現しました。

ドライバー教育では、安全を第二に、効率的な積み込み方法をマンツーマンで指導しています。私たちが運ぶ鋼材は重量物であり、一つひとつの形も異なります。そのため、無駄なく積載し、荷台の重量バランスを保ち、かつ荷下ろしもしやすい配置を考える「空間認識能力」が不可欠です。

この能力を養うため、入社後1〜2カ月間は、先輩ドライバーが荷積みから荷下ろしまで一貫して指導します。経験を積むと、伝票を見るだけで最適な積載イメージを描けるようになります。積載効率の向上は、安全運転



4PLについて説明する松本社長



鋼材を載せて走るワーレックスのトラック

の確保、荷下ろし時間の短縮、そしてドライバーの負担軽減に直結します。

■ノウハウを活かし地域貢献図る

近年は、物流戦略の企画から実行までを包括的に担う4PL（フォース・パーティ・ロジスティクス）にも力を入れています。

鉄鋼流通で培ったノウハウを生かし、輸送支援や業務効率化はもちろん、重量物輸送におけるロジスティクス戦略の企画・推進まで行います。物流業務を包括的に請け負うことで、お客さまとともにサプライチェーン全体の課題解決に取り組みます。また、物流業界全体の安全コンプライアンスを推進するため、コンサルティング業務も展開しています。

ドライバーの労働時間規制やカーボンニュートラルへの対応など、中小運送事業者が取り組むべき課題は山積しています。これらの課題への対応は、企業の存続に不可欠です。

当社も輸送の一部を地域の運送事業者に依頼しており、彼らは大切なパートナーです。地域の運送事業者は、トラック輸送に大きく依存する日本経済にとって不可欠な存在でもあります。

当社が持つノウハウや情報は、これら地域事業者の皆さんの役に立つと確信しています。ぜひご相談いただき、共存共栄の精神で物流の未来を共に切り開いていきたいと考えています。

私たちはハコブトチギを応援しています

